ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E112L001	技術科指導法(中等) (Introduction Method of Industrial Arts(Junior High School))		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
必修	2	2	教育学部 ≪令和２年度以降入学生用≫		火5	日本語		単独

担当教員	氏名　市原靖士、中原久志 E-mail　ichihara-yasushi@oita-u.ac.jp　内線　7587
授業の概要	中学生を対象とした技術教育として、1）技術的課題解決力（技術教育に関る問題を技術的視野で認定し、課題化して、一定の制約条件の元で最適化を図りつつ解決する能力、2）協同的行動能力（学習者の共同や協力及びそれらを前提とした分業・分担目標達成の鍵）を育成するための方策について指導する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	技術教育について理解する。							
目標2	普通教育としての技術教育について理解する。							
目標3								
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
	各DPへの関連度（計10）							

授業の内容	
1	教科とは何か
2	授業とは何か
3	授業設計（１）基本的なフレームワーク
4	授業設計（２）具体的な設計事例
5	授業設計（３）ICT等を利用したフレームワーク
6	指導案の書き方
7	指導案を書く
8	模擬授業
9	技術科教育における技術の捉え方（１）学習指導要領について
10	技術科教育における技術の捉え方（２）教材開発的に視点から
11	技術科教育における技術の捉え方（３）実習を中心として
12	技術科教育における技術の捉え方（４）ICT機器利用に関して
13	わが国の技術教育の現状
14	アメリカ合衆国における技術教育
15	技術科の授業内容の検討

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	・グループに分けディジタル教材の共同作成を行う ・指導案を作成しプレゼンテーションをしお互いに協議、修正や改善をする ・それぞれがテーマを設定し調査結果を発表する	・ICT機器を利用した講義と発表 ・ディジタル教材利活用 ・附属学校との連携
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向	○		
D:知識の活用・創造	○		

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	・指導案の作成（３時間） ・ディジタル教材の共同制作（３時間） ・学習指導要領と教科書の確認（２時間）
	事後学修	・指導案の修正・改善（２時間） ・ディジタル教材の修正・改善（２時間）
	想定時間合計	

教科書	中学校学習指導要領　ISBN4827815798 中学校学習指導要領解説技術・家庭編　ISBN4304021540 新技術科教育総論（日本産業技術教育学会技術教育分科会編）ISBN4798502332
参考書	特になし

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	試験	50%										
	レポート課題	50%										

注意事項	授業指導案に基づく模擬授業の実施
備考	※この科目は『地域創生教育科目』です。
リンク	
URL	
担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	公立中学校教諭経験（10年以上）
教員以外の指導に関わる実務経験者	なし
実務経験をいかした教育内容	授業指導案の作成、実務経験時に使用した題材、教材の使用等